

大上賞の創設について

会員各位

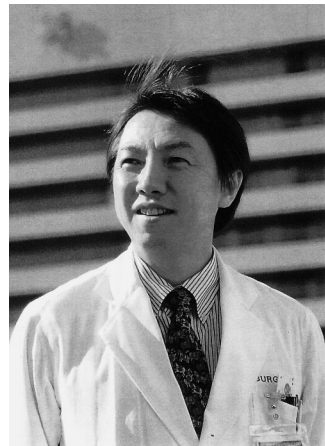
理事長 北島政樹

このたび日本内視鏡外科学会は、故大上正裕先生の功績を永く顕彰するために大上賞を設けることとなりました。思いなかばにして夭折された先生の業績を知らぬ方はいらっしゃるでしょう。我が国の内視鏡外科の草創期にあって彼が果たした役割は、まさに彼以外には成しえなかったものです。

ここに、大上賞を学会として創設することとなった彼の業績と、その人となりについて簡単に述べさせていただきます。

大上先生（愛称ガミちゃん）は昭和 29 年神戸に生を受け、昭和 54 年慶應義塾大学医学部を卒業後、母校の外科学教室に入室しました。すでに学生時代から当時の武見医師会長に直談判し、学生の海外医療活動を開始するなど、知的好奇心のもと優れた行動力を発揮していました。外科学教室では食道外科を専攻し、昭和 62 年より 3 年間カナダブリティッシュコロンビア大学 Pulmonary Research Laboratory 研究室に留学しました。そこでエンドトキシンと単球からみた呼吸病態生理の研究に従事して優れた業績をあげ、その研究で学位を取得されました。留学中、米国で腹腔鏡下胆嚢摘出術の発表にいち早く啓発された彼は、帰国後、川崎市立病院で腹腔鏡下手術を早速開始しました。当時私は若い外科医を連れて見学に行きましたが、そのときの彼の輝いた目を今でも忘れることができません。以降、この新しい手技を様々な手術に応用するため、古い概念にとらわれることなく努力を続け、自分の専門領域にとどまらず、胃癌に対する lesion lifting 法、PDA に対する胸腔鏡下手術、内視鏡下の乳腺や甲状腺の切除など、世界に先駆けた仕事を矢継ぎ早に報告しました。また手術手技にとどまらず、機器の開発や robotic surgery の研究をもいち早く開始しました。

彼は単に先駆者として永く人々の胸に刻まれる



故大上正裕先生

のではなく、その類まれな資質も多くの人に愛されていました。新たな挑戦について熱く語り続ける彼に周囲はいつの間にか惹きつけられ、文字通り有言実行していくその姿は、多くの若い外科医ばかりでなく国内外の指導的な人たちをも瞬時に虜にしてしまったものでした。我が国に初めて daVinci を導入し、その後の新しい術式や一体型マスタ・スレーブ・マニピュレータの開発、消化管癌へのセンチネル理論の導入などに、オーガナイザーとしての彼の力は遺憾なく発揮されました。彼がどこまで新しい世界を構築し実現していくのか、誰も期待を込めて見守っていた矢先、残念なことに別れは突然にやってきました。彼との別れがあまりにも唐突であったことに、我々は深い喪失感に襲われ、そのなかから立ち上がるには相当の時間を要したのです。

大上正裕という類まれな個性が遺した遺産は、今も私達の中に生きています。その記憶がこの顕彰によって永く受け継がれていくことを願って止みません。そして今後この大上賞が我が国の内視鏡外科にたずさわる者にとって、最高の榮譽として評価されるよう育てていただきたいと思います。

2007 年 12 月 15 日

日本内視鏡外科学会「大上賞」推薦依頼について

評議員各位

日本内視鏡外科学会「学術賞委員会」

委員長 土屋了介

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度、日本内視鏡外科学会では「大上賞」を設置し、以下の通りの要領にて受賞候補者推薦の募集を行います。

ふさわしい候補者をご推薦下さいますようお願い致します。

記

1. 規定は以下の通り。
2. 推薦用紙（本学会評議員の推薦状）、論文別冊を下記事務局宛ご送付下さい。
3. 応募締切日：2008 年 1 月 31 日（月）（消印有効）

以上

送付先：〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1 三田村ビル

有限責任中間法人学会支援機構内

日本内視鏡外科学会事務局

学術賞委員会委員長 土屋了介

日本内視鏡外科学会 学術賞(大上賞)選考規約(抜粋)

総則

2. 本賞は内視鏡外科学に関してすぐれた研究業績を発表した研究者に対して、選考の上、本学会学術集会において授与する。
4. 受賞者は本学会総会において記念講演を要請されることがある。

選考

5. 受賞対象者は、本学会および日本内視鏡外科学会の機関誌、あるいはそれに相当する学術誌に独創的な論文を筆頭者として発表した会員を原則とするが、内視鏡外科学の発展に著明な功績のあった研究者についてはこの限りではない。
6. 受賞候補になるには、必要事項を記入した所定の応募用紙、論文の別冊と本学会評議員 1 名以上の推薦状(1000 字以内)および内視鏡外科学に関する簡略な業績の提出を要する。

但し、学術賞選考委員会構成員は受賞候補あるいは推薦者となることはできない。

附則

本規約は 2006 年(平成 18 年)12 月 5 日より施行する。

日本内視鏡外科学会 大上賞 推薦書

フリガナ		フリガナ	
候補者氏名		推薦評議員 氏名	印
推薦評議員 勤務先			

受賞対象業績（掲載雑誌・巻号を記載すること）

雑誌名（巻号）	

推薦理由（1000字以内で記入する）

[illegible]

提出日： 年 月 日

フリガナ			性 別	男 ・ 女
候補者氏名	印		年 齢	満 歳
入会年月日 (西暦)	年 月 日		技術認定	有 ・ 無
勤務先	名 称			
	現職名		専門領域	
	所在地	〒		
自宅住所	〒			
連絡先	所属機関 自宅 (いずれかに○)			

略歴（大学卒業後の職歴、その他：卒業年は西暦）

年 月	
年 月	
年 月	
年 月	
年 月	

業績目録（著者名欄の本人名にアンダーライン）

	著者名	表題（雑誌の場合、巻・号・頁）	雑誌または著者名	発行年
1				
2				
3				
4				
5				